

合格体験談

六年生の六月ごろは、理科と社会に力を入れていました。塾の友だちのなかには、暗記ものは入試直前につめこめば何とかなる、と言う人もいたけれど、「じゃあ自分は今のうちに深く理解しておけば、差をつけられるかも」と思っただんです。

桜蔭中の理科の入試問題では、実験がよく出ます。実験の結果がなぜそうなるのか、理由付けが大事なので、いつも理由を考えて勉強していました。生物の暗記をするときも単語カードは使わなかったです。たとえば「モンシロチョウは昆虫、クモは昆虫ではない」とだけ覚えていたら、もしも頭の中で逆になったとしても、気づかないと思います。だから、昆虫とは何か、だからどれが昆虫か、と考えるようにするんです。こうして頭に入れていけば、間違えることはありません。

社会も同じように、理由やつながりを考える

ようにしました。歴史ではできごと同士のつながりを勉強したり、わからないところは自分で大きな物語のようにつなげて覚えたりしました。地理はニュースや新聞で知らない地名があったら地図帳で調べて、その地域でほかにも有名

算数は得意な男の子を見て、できるだけ近づきたい、追い抜きたい、と思っただけ近づきました。考え方は合っているのに計算ミスが多、テストで何度も悔しい思いをしていたんです。入試本番でも同じようなミスをしな

授業に集中して時間内に理解

つながりや理由を考えて

吉田 三輪さん 桜蔭中学校一年(東京都)

な産業などもおさえるようにしました。

朝小の「ニュースあれこれ」は時事問題チェックに役立ちました。朝小を三年生から読んで

ニュースに慣れていたので、公民の用語も頭に入

りやすかったです。

に、克服しようと思っただけで意識しました。

国語は読書のときも「どうしてこう言ったんだろう」「主人公はこのときどういう気持ちな

んだろう」と考えるようにしていました。さらに、わからない言葉があったら必ず国語辞典で

調べていました。辞書はカバーのビニールが破れるくらい、使いこみました。

勉強は塾の授業に集中して、そのなかで吸収するのが一番です。集中力を切らさず、先生の話を頭に焼き付けられるように、毎日九〜十時間の睡眠時間を確保して授業に臨んでいました。

家ではふだんからタイマーをかけて「この大問に十五分」「一時間は集中」などとしていました。また、週一回のプール教室に通っていましたが、忙しいなかでも、水泳がリフレッシュになったので、受験のときも続けてよかったと思っています。

夏期講習は、これまでに習ったことの復習や応用が中心だと思えます。講習が始まってから「これ何だっけ」「この単語わからない」とならないように、テキスト全体を読み流すだけでなく、復習しておくことをおすすめします。